

ねじりはちまき

2月如月^{きさらぎ} 立春 雨水の月になりました。

2月3日節分で豆まきです。5日初午^{はつうま}、8日針供養、11日建国記念の日 19日
雨水、23日天皇誕生日となっております。

2月5日初午でお稲荷様のお祭りです。赤いのぼりを何十本も立て、笛や太鼓を鳴らして油揚げなどを供えて、飲食を共にする祭りで京都伏見の稲荷神社がもっとも名高いお稲荷様が、開運出世の神であるため現在でも初午の人気は高いようです。お稲荷信仰については稲成、飯生の意味があるとも言われ、やがて仏教の茶枳尼天^{なまにてん}(夜叉、又は羅刹の一つで自在の神通力を有すると言う)とされる。茶枳尼天が狐に乗っている姿にもとづいて、いつしか稲荷神を狐と結び付けて信仰する様になったと言われてしています。

幸田 常一

<会社近況>

いつも大変お世話になっております。現在は、郡山市の現場と、本宮市の住宅修繕などをお世話になっております。寒さが厳しさを増す中、寒暖差が激しい日もありますので、体調にお気を付けください。

※<2月 旬のレンコン>※

冬に美味しい野菜として、レンコンが旬ですね。煮物やおせちでも使われています。最近はお値段が買いやすくなっているのを見かけます。ポリフェノールや、ビタミンなど栄養も豊富で食物繊維も多く、腸内環境に良い効果があるそうです。きんぴらや、ツナマヨ和え、レンコンチップスと様々な料理のバリエーションがありますので、ぜひ旬の時期にいかがでしょうか。

<商品紹介>

画像<LIXIL カタログより>

光熱費が高騰する中、内窓をプラスし、断熱効果をあげて快適に過ごすことができます。優れたデザイン性で空間に調和する選べる窓の紹介です。

インプラス for Renovation

優れたデザイン性で空間に調和するリノベーションシリーズ。
現代のインテリアに馴染む「デザイン」でも選べる窓です。



サイトオフ



フューエルガラスプレー



令和5年2月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記> 節分の季節に

なりました。皆さん、今年は

どんな鬼を退治したいでしょうか。

豆まきには『邪気を退治して一年の

無病息災を願う』という言い伝えが

あるそうです。(ほしの)

言葉の面白さについて

今回は、言葉の面白さについて取り上げたい。面白さと言っても、何が面白いのと言われそうなので、具体的にどんなものがあるのかお示ししてみたい。

まずは、身近な体の部分についての表現を見てみよう。どんなものがあるでしょうか。

1. 足

- ・足が付く：逃げた足取りが分かること
- ・足が出る：予算を超えてしまい、お金が足りなくなること
- ・足が早い：食べ物が腐りやすい。商品の売れ行きがよい。
- ・足元を見る：相手の弱みにつけ込む。
- ・足をすくう：隙を狙い失敗させる。足をすくわれる：隙を付かれて失敗する
- ・足を伸ばす：予定より遠くへ行く。
- ・足を引っ張る：他人の成功や前進を陰で邪魔する。物事全体の進行の妨げとなる。
- ・足を洗う：賤しい勤めをやめて堅気になる。悪い所業をやめて真面目になること。
- ・二の足を踏む：決心がつかず、しりごみすること。
- ・足が奪われる：通勤や通学などの交通手段が失われること。
- ・足を取られる：酒に酔って、或は障害に遭って、歩行が思うようにならない。
- ・足を抜く：関係を絶つ。
- ・足を運ぶ：わざわざ訪問する。
- ・足を踏み入れる：ある堺を超えてその先に行く。
- ・足を棒にする：長い時間歩き続けて、足がひどく疲れてこわばる。
- ・足を向けて寝られない：人から受けた恩恵を常に忘れない気持ちを表わす表現。
- ・足が地に着かない：考えだけが先走って裏付けがしっかりしない。
- ・足が遠のく：そこに行く回数が減る。訪ねるのが間遠になる。
- ・足で稼ぐ：行動力によって成果を手に入れる。
- ・足が重い：そこへ出向くのがいやである。いきたくない。
- ・足の踏み場もない：物がいっぱいに散らばっていて、足を下ろす場所もない。

2. 手

- ・手が空く：仕事が早く片付いて時間があく。
- ・手につかない：何かが気になって、するべきことに集中できない。
- ・手を打つ：前もって対策を立てておく。口承などで、合意する。
- ・手を切る：関係を絶つ。
- ・手を拱（こまね）く：何もしないでただ傍観する。
- ・手を尽くす：出来る限りのことをすべてする。
- ・手を広げる：仕事などの範囲を広げる。
- ・手を回す：必要な手はずを整える。
- ・手がかかる一手が離れる：世話の手数がかかる—世話の手数がかからなくなる。
- ・手が塞（ふさ）がる：ある仕事をしている最中で、他の事をする余裕がない。
- ・手が焼ける：手数がかかって厄介である。
- ・手柄：うでまえを発揮すること。
- ・手に汗を握る：危ない物事や激しい争いをはらはらする。
- ・手に負えない：自分の力ではとても処理できない。 <類語>手に余る
- ・手に取るよう：すぐにも実現しそうなさま。
- ・手が早い：物事をするのが、てきぱきと敏速である。すぐに女性と関係をもつ。
- ・手に落ちる：人の所有物になる。また、支配下に入る。
- ・手が回る：手配りが十分行き届く。犯人逮捕のための手配がなされる。

- ・手が後ろにまわる：悪事を行って逮捕される。
 - ・これより手がない：これしかとるべき手段、方法がない。
 - ・その手をくわぬ：講じられる手段、方法には騙されない。
 - ・手習い：文字を書く練習、習字。 ・手合わせ：合戦で勝負を決すること。
3. 手取り足取り：懇切丁寧に教え導くさま。
4. 口
- ・口が軽い：秘密などをついにしゃべってしまう。 <反対>口が堅い
 - ・口が重い：口数が少ない
 - ・口を切る：最初に発言する
 - ・口を割る：白状する
 - ・口をはさむ：横から口出しすること。 <同類>嘴を容れる
 - ・舌が肥えている：味のよしあしを識別する力がついている
 - ・舌の根も乾かぬうち：言い終えてすぐに（矛盾する発言を非難する場合に使う）
 - ・奥歯に物が挟まったよう：言いたいことをはっきり言わない様子
 - ・歯に衣着せぬ：思ったことを遠慮せずに言う態度
4. 目
- ・目を三角にする：目を吊り上げて怒る。
 - ・一目置く：相手の力量に敬意を表し、一步譲って接する。
 - ・目は口ほどに物をいう：情を込めた目つきは、口で話す以上に強く相手の心を捉える。
 - ・睨みを利かす：人を威圧して反抗させないようにする。
5. 鼻
- ・鼻っ柱が強い：向こう気が強く、強情で譲らない。
 - ・鼻であしらう：相手を侮って、いいかげんに扱う。
 - ・鼻持ちならない：態度が嫌な感じで我慢できない。
 - ・鼻を突き合わせる：近く寄り合う。近くで向かい合う。
 - ・鼻が高い：得意なさま、自慢げである。 <類語>鼻にかける：自慢する。
 - ・鼻が利く：わずかな兆候から役に立つ事柄を見つけ出す能力。
 - ・鼻が曲がる：悪臭が余りにもひどい例え。
 - ・鼻で笑う：相手を見下して、冷淡にあざけり笑う。
 - ・鼻を明かす：「相手がいい気になっているすきに出し抜いて、あつと言わせる。」
 - ・鼻に付く：飽きて嫌になる。また、嫌みに感じられる。
6. 耳
- ・耳を疑う：思いがけないことを聞き、にわかには信じられない。
 - ・耳を傾ける：注意して聞く。
 - ・耳を揃える：金額を不足なく揃える。
 - ・耳が痛い：他人の言が自分の弱点をついていて、聞くことがつらい。
 - ・耳が早い：うわさなどを早く聞きつける。
 - ・耳に入れる：告げ知らせる。ひそかに聞かせる。

新年山行 安達太良山・名倉山

【山の概要】

安達太良山 (百 1700m)

名倉山 (なぐらやま、大名倉山とも呼ばれる 576m、本宮市と大玉村境)

(百は日本百名山、◎は日本二百名山、○は日本三百名山)

【日程概要】

1月9日(月) 安達太良山 くろがね小屋休憩、風・雪強く山頂に至らず

1月29日(日) 名倉山

2月1日(水) 安達太良山

1月9日(月、成人の日) 新年初山行

新年初山行として地元の日本百名山、安達太良山に出かけた。

自宅を7時半前に出発。準備し奥岳を8:20スタート。天候は曇り、少し風がある。連休で前日の天気が良かったため、くろがね小屋泊りの登山者が多かったようで、4グループ25人くらいの下山者とすれ違いあいさつをかわす。アイゼン装着の人が多かった。自分はツボ足(登山靴のまま)で行けるところまで行くことにした。踏み跡がしっかりしているので沈まない。次第に風が強くなってきた。

10:35 くろがね小屋着。小屋番の人達と話す。くろがね小屋はこの3月末で閉鎖され、建て替えられるとのこと。建て替えの話があってから10年くらい経ってようやく具体化したらしい。条件が悪く施工業者入札の不調が続いたらしい。週末など宿泊者が多い時に手伝いに来ているIさんと久しぶりにお会いした。

11:20 アイゼンを着けて山頂を目指す。Iさんの話だと3連休のうち前日が最も天気が良く、今日は下り坂とのこと。風が強く凍った細かい雪の粒が地吹雪で顔に当たり痛い。小屋で一緒だったスキーの若者が馬力で追い越していった。同じ青っぽい服装の2人の女性登山者に追いつく。風がますます強くなり雪も降ってきた。峰ノ辻を越え10m~15mくらいの間隔で雪原に突きたてられた目印の竹の棒が見えなくなってきたところで登頂を断念し引き返すことにした。

1時間20分経過していた。無雪期にはとっくに山頂に着いていた時間だ。スキーの若者も登頂を断念し下りてきた。2人の女性登山者も立ち往生していた。一緒に下山することにした。頼まれて、埋もれた標識の前で写真を撮ったが、自分はその気にならなかった。小屋に近くなり風が少し弱くなったところで話したら、大阪から来て、今夜はくろがね小屋泊りとのこと。翌日はさらに天候が悪くなるので登頂は無理だとしたらかわいそうだと思った。

小屋のすぐ目の前まで自分は忠実に踏み跡をたどったが、二人は少し外れて歩いていて、一人がスポッと落ちてしまった。もがきながらようやく自力で這い上がってきた。源泉から岳温泉までの湯樋が通っているところは雪が解けて空洞状態になっているところに落ちてしまったのだ。目印の竹の棒が❖印に交差して刺さっていたが初めての人には良く分からない印だ。

二人にIさんへの伝言を頼み、小屋には寄らずに下山することにした。アイゼンを外したり着けたりするのも面倒だ。寄って体を温めたら外に出たくなくなってしまう。

15時、駐車場着。車の中で暖まりながらおにぎりを食べ、ぬるくなったお茶を飲みホットする。

新年初山行、安達太良山は中途半端になってしまったが、くろがね小屋への新年のご挨拶ということにして納得する。写真を撮る余裕はなかった。

1月29日（日）名倉山、知人との40年ぶりの再会

10時頃、天気が良いので散歩がてらにおにぎりを持って近くの名倉山に行くことにした。名倉山は安達太良山の大展望台の山で「うつくしま百名山」(※)に選定されてもおかしくない山だが、かつては採石場があり崖地になっていて景観が悪く自然破壊の見本のような山だったために選定から外れたのだろう。跡地には今は草が茂っていて崖地は見えない。大玉村の主催で初日の出を見る会が毎年元旦に行われている。

※1998（平成10）年に福島テレビが開局35周年を記念して選定した福島県内各地域を代表する名山、選定委員長田部井淳子さん。

玉井登山口駐車場には車が1台あった。準備していたら70代くらいの女性が下りてきた。福島市松川町在住とのことで、時々来るとのこと。

作業服に長靴スタイルで駐車場を11:30に出発する。雪は数センチ、踏み跡がたくさんあった。しばらく行くと男の人が下りてきた。立ち話をしたら地元の人で、車が駐車場になかったけどと言ったら、駐車場のずっと手前に置いてきたとのこと。平地を歩くより山道の方が運動の効果があるだろうとのこと。男の人から自分の年齢を聞かれたので応えて、聞き返したら、その人は78歳とのこと。雪道の下りなので、雪の下が凍っていたりすると滑って転ぶので気を付けて欲しいと思った。杖を突いていて危なかしい感じがした。

採石場跡地から先は、村が整備したジグザグの登山道に行く。電波塔のある本宮市青田からの道を合わせ、山頂に12:10に着く。所要時間40分。

北西の安達太良山は上部が雲の中で全貌は見えない。(写真左)



大玉村全域と東側の阿武隈山地の山々、本宮市街地の一部が見渡せる。(写真下)

おにぎりを食べていると熟年の夫婦や単独行、若者の登山者がそれぞれ登って来ては下

りていく。雪で高い山に行けない人たちが来ているようだ。



50代と思われる人と話したら、向こうから「Sさん」ですかと自分の名前を言われてびっくりした。話しているうちに思い出した。40年前の6月にバレーボールの試合でアキレス腱を断裂して地元の病院に一月以上入院したときに、6人部屋の同室に高校を出て会社勤め始めたばかりの若者がいたことを思い出した。互いに容姿はもちろん変わっていて、話をしなければ分からなかっただろう。話しているうちにだんだん二十歳前の若者の表情を思い出した。今58歳で大玉村在住のKさんだった。

名倉山登山は2回目で、これからいろんな山に登ってみたいという話。自分も興が乗ってきて、山の先輩面をして名倉山山頂から見える阿武隈山地の山々、麓山(897m)、日山(天王山1057m)、鎌倉岳(967m)、移ヶ岳(995m)、大滝根山(1193m)、蓬田岳(952m)、宇津峰山(677m)などを指さして教えた。靴やカッパの話などもした。「うつくしま百名山」を参考にして登ると良いとか、いろいろと話し込んでしまい山頂に1時間半もいて体が冷えてきた。

下山して携帯の電話番号を交換し再会を約し別れた。このような偶然の再会があることに驚き、今年の山行の幸先が良いと思った。

2月1日（水）安達太良山

朝起きたら風もなく、安達太良山には雲はかかかっていなく、青空のもと、名倉山の背後にくっきりと見えた。先日は山頂まで行けなかったので、急遽おにぎりを作ってもらい出かけることにした。

自宅出発は9時になってしまった。夕方には用務が入っていなかったもので、暗くなるまでに下山できれば良いと思い、登れるところまで登ろうと思った。岳温泉に向かう途中から見た安達太良連峰がきれいだった。右奥の白いピーク



が安達太良山頂。左は和尚山（写真左）

10時に奥岳スキー場出発、風が少しあるが弱い。佐賀県立白石高校のバスが5台止まっていた。スキー教室

の生徒たちで久しぶりに賑わっていてうれしく思った。



30分ほどツボ足で歩いて、スノーシューを装着していると、ワカンやスノーシュー、スキーなどをバラバラに着けた若者6人グループが追い越していった。

先行者がいると踏み跡が固くなって歩き易くなるので大歓迎だ。

くろがね小屋の手前から見た風景（写真左）。

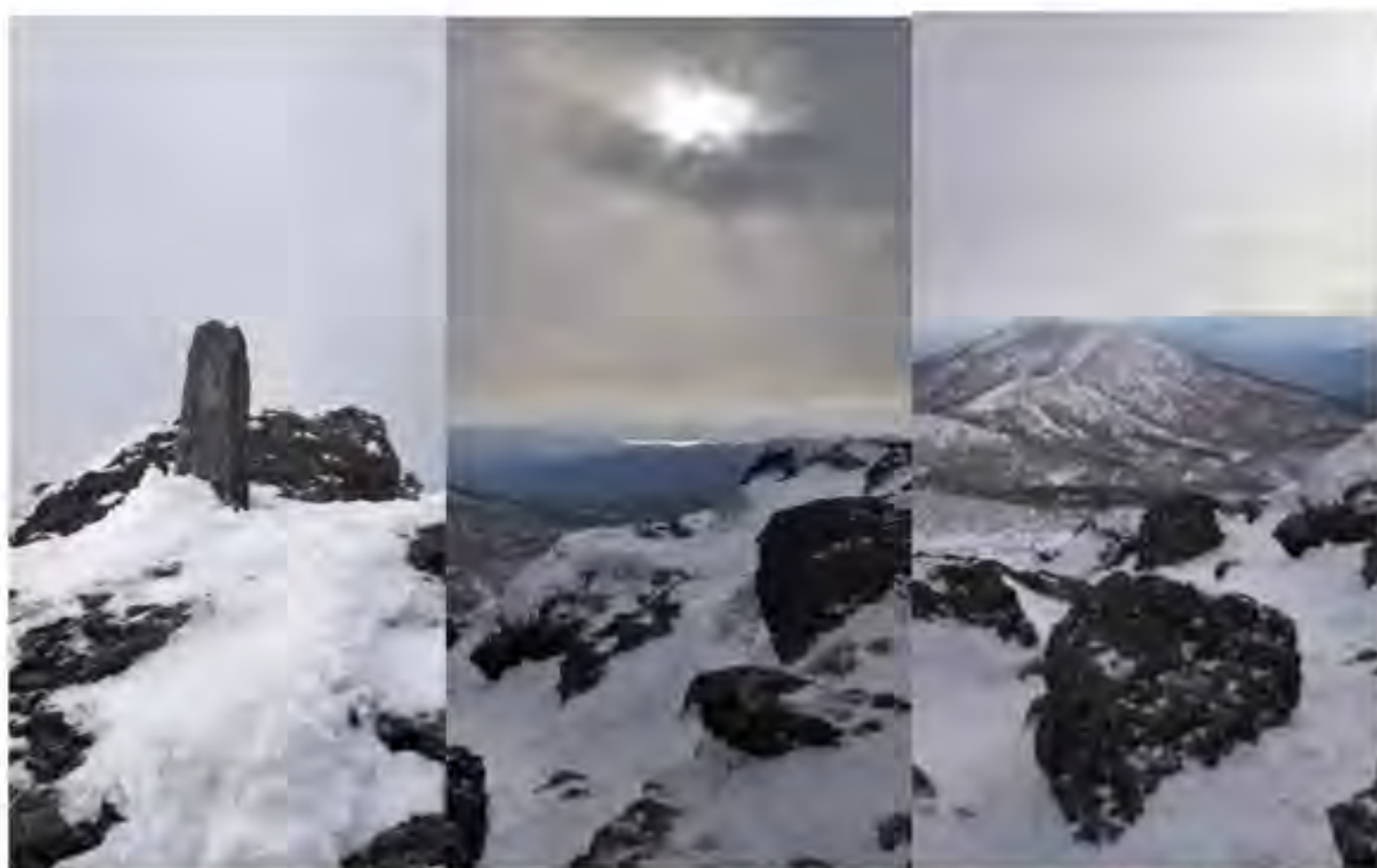
12時30分、くろがね小屋を通過する。時間がおしているので小屋には寄らない。小屋が見えなくなったところで立ったまま小休止、水分

を補給し、妻が作った干し柿を食べる。おにぎりを食べる気はしなかった。

尾根筋に近くなるとしだいに風が強くなってくるが晴れているので心強い。13:30 峰ノ辻、山スキーの若者が追い越していく。山頂直下から仰ぎ見ると雲が湧いてきて太陽の光が遮られる(写真右)。左側奥の突起(乳首)が山頂。(地元では安達太良山は別名乳首山とも呼ばれている)



踏み跡がしっかりしているとはいえ夏山のようにはいかない。スノーシューのまま山頂の岩塊を登るのに苦労する。14:15 山頂着。風が強く長居はできない。スキーの若者が話しかけてきたが良く聞こえない。きょうの安達太良山は冬場としては良い方ですかと言ってるようなので、良い方でしょうと答える。山頂の社にタッチしてすぐに岩陰に逃れる。岩陰から写真を撮る。山頂部の標柱の一つ(写真下左)。猪苗代湖が光って見える(写真下中)。和尚山方面(写真下右)。



休まず下山にかかる。鉄山の麓に源泉がいくつかあり硫黄分で黄ばんでいるところや雪が解けているところがある（写真下）。



15:20 くろがね小屋通過、16:10 馬車道と登山道の分岐で休憩し水分補給。暗くなりつつあるが雪明りでヘッドランプを使う必要はないだろう。17時駐車場着。

リフトも止まりスキー客は誰もいない、オレンジ色の大きな街灯だけが点いている。

おにぎりを1個食べて帰途に就く。降ってきた雪は標高が下がるとみぞれになり、雨に変わり、平地では雨は降っていなかった。

令和5年2月 NO113 アンチ・エイジング 山旅遊人